



2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年2月5日

上場会社名 不二製油グループ本社株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2607 URL <https://www.fujioilholdings.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 清水 洋史
 問合せ先責任者 (役職名) 財務・経理グループリーダー (氏名) 渡部 格 TEL 06-6459-0731
 四半期報告書提出予定日 2021年2月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け電話会議）

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績（2020年4月1日～2020年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	273,144	△6.3	13,522	△18.7	12,865	△14.9	8,613	△28.4
2020年3月期第3四半期	291,499	28.6	16,640	4.4	15,113	△3.4	12,031	33.5

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 4,121百万円 (△16.8%) 2020年3月期第3四半期 4,953百万円 (40.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	100.21	—
2020年3月期第3四半期	139.96	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第3四半期	360,861	155,538	42.3	1,777.60
2020年3月期	367,365	157,986	42.3	1,808.65

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 152,798百万円 2020年3月期 155,467百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	27.00	—	29.00	56.00
2021年3月期	—	26.00	—	—	—
2021年3月期（予想）	—	—	—	26.00	52.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2021年3月期の連結業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	360,000	—	16,500	—	15,300	—	10,000	—	116.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※前連結会計年度は、在外連結子会社19社の決算期の変更により、当該連結子会社が2019年1月1日から2020年3月31日までの15ヵ月決算となっております。このため、対前期増減率については、記載しておりません。

〔参考〕下記の％表示（調整後増減率）は、2020年3月期の決算期変更を行った在外連結子会社19社の決算期を、2019年4月1日～2020年3月31日の12か月間として調整した金額を次期業績予想と比較した増減率です。

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	360,000	△6.2	16,500	△23.1	15,300	△24.6	10,000	△31.9	116.33

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有

除外 1社 （社名）トーラク株式会社

（注）詳細は、添付資料11ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動）」をご覧ください。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期3Q	87,569,383株	2020年3月期	87,569,383株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	1,612,057株	2020年3月期	1,611,869株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期3Q	85,957,488株	2020年3月期3Q	85,957,674株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に対する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想値とは異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	11
(追加情報)	11
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における日本経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大により経済活動は大きく制限されております。政府の経済対策の効果もあり、個人消費については緩やかな回復基調に戻っていたものの、年末からは感染者が拡大傾向にあり、依然として感染拡大の収束時期の見通しが立たず、先行き不透明な状況が続いております。また、世界各国においても、春先にかけて厳格なロックダウンを実施し、経済活動を全面的に停止してまいりました。大規模な財政支援策などから先進国経済は、回復基調にありましたが、冬場の感染再拡大に伴う活動制限の強化を受けて、足取りはやや停滞しております。当社グループにおきましても、国内市場ではインバウンド需要の減少、土産物市場の低迷、海外市場では相対的に堅調な中国を除き、欧米・東南アジアは、厳格なロックダウンによる影響を大きく受けております。

食品業界においては、外出自粛、飲食店の休業や営業時間短縮、テレワークなどの生活様式の変化から、外食需要が低迷する一方で、自宅で食事をとる機会が増加し、利便性の高い商品や時短商品の売れ行きが好調となり、デリバリーやテイクアウト需要が高まっております。これらの消費者行動の変化、働き方の変化が一時的なものではないと捉え、当社グループとしては、油脂とたん白の技術を融合し、発展させ、新しい食品のプラットフォームとなる基幹素材を開発し、社会課題の解決を図り、「人のために働く」ことで、サステナブルな社会に貢献してまいりたいと考えております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における経営成績は、以下のとおりとなりました。

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益
2021年3月期 第3四半期連結累計期間	273,144	13,522	12,865	8,613
2020年3月期 第3四半期連結累計期間	291,499	16,640	15,113	12,031
前年同期比 増減 (前年同期比 増減率)	△18,355 (△6.3%)	△3,117 (△18.7%)	△2,248 (△14.9%)	△3,417 (△28.4%)

セグメントごとの経営成績は、次のとおりです。

(単位：百万円)

	売上高	前年同期比 増減	前年同期比 (%)	営業利益	前年同期比 増減	前年同期比 (%)
植物性油脂	72,163	△1,431	△1.9%	5,586	△1,753	△23.9%
業務用チョコレート	122,094	△7,187	△5.6%	5,445	△243	△4.3%
乳化・発酵素材	52,835	△8,858	△14.4%	2,461	△771	△23.9%
大豆加工素材	26,050	△878	△3.3%	2,686	△422	△13.6%
連結消去・グループ管理費用	—	—	—	△2,656	+73	—
合計	273,144	△18,355	△6.3%	13,522	△3,117	△18.7%

(植物性油脂事業)

売上高は、国内市場では、外出自粛により家庭用菓子関連の販売が増加しましたが、外食市場向けの販売の減少により、微減となりました。海外市場では、米州において原料相場影響で増収となったものの、中国を除くその他のエリアでは新型コロナウイルス感染症拡大の影響による市場の停滞で減収となりました。利益面は、海外市場で欧州の販売の低迷や米州の原料コスト増加による収益性低下により、減益となりました。

(業務用チョコレート事業)

売上高は、国内市場では、訪日外国人旅行者の大幅な減少に伴いインバウンド需要が急速に減少し、減収となりました。海外市場では、中国において家庭菓子用チョコレートの販売拡大があったものの、米州やブラジルのロックダウンによる市場の冷え込みの影響が大きく、減収となりました。利益面では、Blommer Chocolate Companyの先物評価益の計上があったものの他のエリアでの販売減少による利益減をカバーできず、減益となりました。

(乳化・発酵素材事業)

売上高は、国内市場では、外食市場向けクリームやパン用マーガリンの販売減少、国内連結子会社の連結除外に伴う売上高減少の影響があり、減収となりました。海外市場では、中国において付加価値の高いマーガリンの販売割合が上昇したものの、アジアにおいて菓子原料となる粉乳調製品等の販売が減少し、減収となりました。利益面では、国内、海外ともに足元は回復基調にあるものの、当第3四半期連結累計期間としては、販売の減少により、減益となりました。

(大豆加工素材事業)

売上高は、国内市場では千葉工場が稼働開始した大豆たん白素材の販売が好調となりましたが、豆乳事業の事業整理に伴う売上高の減少もあり、減収となりました。海外市場では、前年度中国のたん白食品子会社の連結除外に伴う売上高減少の影響があり、減収となりました。利益面では、国内市場は機能剤の販売が不調、海外市場は欧州における機能剤事業の新規拠点建設での経費増加もあり、減益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ65億4百万円減少し、3,608億61百万円となりました。引き続き、運転資本の圧縮やノンコア資産の売却等によりバランスシートを圧縮することおよびグループファイナンスの高度化により、財務体質を向上させ、経営の効率化を進めてまいります。

当第3四半期連結会計期間末における連結財政状態は、以下のとおりです。

(単位：百万円)

	2020年3月期	2021年3月期 第3四半期	増減
資産計	367,365	360,861	△6,504
負債計	209,379	205,322	△4,056
純資産計	157,986	155,538	△2,447

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の資産は、引き続き、新型コロナウイルス感染症を中心とした不測の事態に踏まえ、手元流動性を確保したため現金及び預金が増加しております。また、グループとして繁忙期となり、売上債権の増加はありますが、伊藤忠商事(株)とのカカオ豆の共同購買スキームの導入により在庫の圧縮が進み、流動資産は微減となっております。有形固定資産は、工場新設や既存設備の更新への設備投資が順調に進んでおります。また、のれんは、海外グループ会社の為替換算の影響および償却により減少しております。以上の結果、前連結会計年度末に比べ65億4百万円減少し、3,608億61百万円となりました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債は、冬季賞与の支払いによる賞与引当金の減少や未払法人税等の減少および長期借入金の返済等により、前連結会計年度末に比べ40億56百万円減少し、2,053億22百万円となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、配当金の支払い後においても利益剰余金は増加しておりますが、円高基調における為替換算調整勘定の減少が更に加速したことにより、前連結会計年度末に比べ24億47百万円減少し、1,555億38百万円となりました。

この結果、1株当たり純資産は前連結会計年度末に比べ31円05銭減少し、1,777円60銭となりました。自己資本比率は前連結会計年度末から変更なく、42.3%となりました。

(連結キャッシュ・フローの状況)

当社グループは、財務規律を維持・向上するためには有利子負債の削減が求められ、着実な利益成長とCCCの改善により、フリー・キャッシュ・フローを毎年100億円以上創出する必要があると認識しております。そのため、設備投資の抑制、非中核事業のEXITおよび政策保有株式の更なる削減等により、キャッシュ・フローをコントロールしております。

当第3四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況は、以下のとおりです。

(単位：百万円)

	2020年3月期 第3四半期累計期間	2021年3月期 第3四半期累計期間	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	20,195	26,475	+6,279
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11,768	△10,885	+882
フリー・キャッシュ・フロー	8,427	15,590	+7,162
財務活動によるキャッシュ・フロー	△9,042	△7,628	+1,413
現金及び現金同等物	20,042	26,865	+6,822

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、伊藤忠商事(株)とのカカオ豆の共同購買スキームの導入を中心とした運転資本の圧縮に加えて、グループファイナンスの高度化を実施し、金融費用の削減を行ったことにより、264億75百万円の収入となりました。前第3四半期連結累計期間に比べ、運転資本の増加を主要因として、62億79百万円増加しております。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、アメリカにおける植物性油脂事業の新規拠点建設、ドイツにおける欧米市場向けの機能剤事業の新規拠点建設および日本における大豆加工素材の新工場の設備投資を行ったことにより、108億85百万円の支出となりました。前第3四半期連結累計期間に比べ、前第3四半期連結累計期間での持合株式の縮減による収入、堺工場の土地売却による収入が減少した為、国内子会社・海外子会社の株式譲渡に伴う貸付金の回収および譲渡収入はありましたが、8億82百万円支出が減少しております。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いおよび有利子負債の返済等により、76億28百万円の支出となりました。前第3四半期連結累計期間に比べ、コロナ禍における不測の事態への対応として、手元流動性の確保を目的に、有利子負債の返済を抑制したことにより、14億13百万円支出が減少しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,589	26,875
受取手形及び売掛金	65,749	71,918
商品及び製品	33,932	30,146
原材料及び貯蔵品	45,529	34,812
その他	5,056	4,695
貸倒引当金	△196	△251
流動資産合計	168,662	168,197
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	37,988	37,447
機械装置及び運搬具(純額)	48,473	48,184
土地	18,243	18,006
建設仮勘定	12,593	15,361
その他(純額)	6,308	6,244
有形固定資産合計	123,606	125,245
無形固定資産		
のれん	29,227	26,399
顧客関連資産	18,080	16,506
その他	12,371	11,022
無形固定資産合計	59,679	53,928
投資その他の資産		
投資有価証券	8,133	7,091
退職給付に係る資産	2,238	2,756
繰延税金資産	1,504	906
その他	3,417	2,600
貸倒引当金	△119	△63
投資その他の資産合計	15,173	13,289
固定資産合計	198,459	192,463
繰延資産		
社債発行費	243	199
繰延資産合計	243	199
資産合計	367,365	360,861

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	26,671	27,815
短期借入金	51,300	50,952
コマーシャル・ペーパー	10,000	10,000
未払法人税等	2,935	1,979
賞与引当金	2,589	1,367
役員賞与引当金	128	0
その他	11,859	12,212
流動負債合計	105,484	104,327
固定負債		
社債	45,000	45,000
長期借入金	39,931	37,316
繰延税金負債	12,300	12,375
退職給付に係る負債	2,028	1,655
その他	4,634	4,648
固定負債合計	103,894	100,995
負債合計	209,379	205,322
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,208	13,208
資本剰余金	11,730	11,945
利益剰余金	148,119	150,278
自己株式	△1,753	△1,968
株主資本合計	171,306	173,464
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,272	1,710
繰延ヘッジ損益	124	△226
為替換算調整勘定	△16,950	△20,944
退職給付に係る調整累計額	△1,285	△1,205
その他の包括利益累計額合計	△15,838	△20,666
非支配株主持分	2,518	2,740
純資産合計	157,986	155,538
負債純資産合計	367,365	360,861

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	291,499	273,144
売上原価	235,748	224,347
売上総利益	55,751	48,797
販売費及び一般管理費	39,111	35,274
営業利益	16,640	13,522
営業外収益		
受取利息	160	140
受取配当金	118	80
還付税金	306	—
持分法による投資利益	—	148
デリバティブ評価益	—	204
その他	163	354
営業外収益合計	749	929
営業外費用		
支払利息	1,519	1,082
為替差損	171	4
持分法による投資損失	2	—
その他	581	499
営業外費用合計	2,275	1,586
経常利益	15,113	12,865
特別利益		
固定資産売却益	865	12
投資有価証券売却益	1,884	526
関係会社株式売却益	—	530
事業譲渡益	152	—
特別利益合計	2,901	1,069
特別損失		
固定資産処分損	166	184
減損損失	117	774
関係会社株式評価損	57	102
関係会社事業再構築損失	489	—
賃貸借契約解約損	125	—
特別損失合計	956	1,061
税金等調整前四半期純利益	17,058	12,874
法人税、住民税及び事業税	3,949	2,910
法人税等調整額	713	1,186
法人税等合計	4,662	4,096
四半期純利益	12,395	8,777
非支配株主に帰属する四半期純利益	364	163
親会社株主に帰属する四半期純利益	12,031	8,613

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	12,395	8,777
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,873	△562
繰延ヘッジ損益	261	△350
為替換算調整勘定	△5,820	△3,884
退職給付に係る調整額	36	79
持分法適用会社に対する持分相当額	△45	61
その他の包括利益合計	△7,442	△4,656
四半期包括利益	4,953	4,121
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,848	3,786
非支配株主に係る四半期包括利益	104	335

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	17,058	12,874
減価償却費	10,744	10,659
のれん償却額	1,710	1,561
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△531	△518
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	37	140
受取利息及び受取配当金	△279	△221
支払利息	1,519	1,082
減損損失	117	774
関係会社事業再構築損失	489	—
持分法による投資損益 (△は益)	2	△148
投資有価証券売却損益 (△は益)	△1,884	△526
固定資産処分損益 (△は益)	△698	171
関係会社株式売却損益 (△は益)	—	△530
関係会社株式評価損	57	102
売上債権の増減額 (△は増加)	△5,621	△7,858
たな卸資産の増減額 (△は増加)	4,555	12,874
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,817	2,038
その他	△2,017	△1,322
小計	23,445	31,152
利息及び配当金の受取額	283	226
利息の支払額	△1,493	△1,191
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△2,039	△3,712
営業活動によるキャッシュ・フロー	20,195	26,475
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△13,157	△13,932
有形固定資産の売却による収入	1,135	37
無形固定資産の取得による支出	△1,272	△589
投資有価証券の売却による収入	2,829	767
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	—	1,145
連結の範囲の変更を伴う子会社出資金の売却による支出	△225	—
長期貸付金の回収による収入	23	1,739
その他	△1,101	△52
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11,768	△10,885
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△72,481	13,603
コマーシャル・ペーパーの純増減額 (△は減少)	10,000	—
長期借入れによる収入	27,266	5,099
長期借入金の返済による支出	△3,345	△21,036
社債の発行による収入	34,707	—
配当金の支払額	△4,469	△4,730
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△108	—
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の売却による収入	—	79
非支配株主への配当金の支払額	△137	△128
その他	△473	△515
財務活動によるキャッシュ・フロー	△9,042	△7,628
現金及び現金同等物に係る換算差額	△668	325
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,284	8,286
現金及び現金同等物の期首残高	21,207	18,578
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	119	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	20,042	26,865

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

(連結の範囲の重要な変更)

第2四半期連結会計期間において、トーラク株式会社は当社が保有する全株式を譲渡したため、連結の範囲から除外しております。また、当第3四半期連結会計期間において、Blommer Chocolate Company Limited Shanghaiは清算したため、連結の範囲から除外しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症拡大を受け、当社グループは第1四半期連結会計期間(2020年4～6月)に各都市におけるロックダウンや外出規制等に伴う経済活動の停滞の影響を受けるものの、第2四半期連結会計期間(2020年7～9月)から徐々に回復し、当第3四半期連結会計期間以降には影響がなくなるとの仮定に基づき、会計上の見積りを行ってまいりました。

しかしながら、第2四半期連結会計期間末において、入手可能な情報等を踏まえ、改めて本感染症による今後の影響を検討した結果、当第3四半期連結会計期間(2020年10～12月)以降も世界経済は緩やかに回復するものの、そのペースは緩慢であり、2020年度末までその傾向は継続するものと仮定を変更しております。この仮定に基づき、繰延税金資産の回収可能性およびのれん並びに固定資産の減損判定にかかる会計上の見積りを行った結果、四半期連結財務諸表への影響はありません。なお、この仮定については、第2四半期連結会計期間末から重要な変更はありません。

(取締役に対する株式報酬制度)

当社は、2020年6月18日開催の第92回定時株主総会決議に基づき、当社取締役(社外取締役を除く。)を対象に、取締役の報酬と当社の株式価値との連動性をより明確にし、取締役が株価の変動による利益・リスクを株主の皆様と共有することで、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的として、株式報酬制度を導入しました。

本制度にかかる会計処理については、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 2015年3月26日)に準じております。

(1) 取引の概要

本制度は、当社が金銭を拠出することにより設定する信託(以下「本信託」という。)が当社株式を取得し、当社が各取締役に付与するポイントの数に相当する数の当社株式が本信託を通じて各取締役に対して交付されるという株式報酬制度です。また、本制度においては、2021年3月31日で終了する事業年度から2023年3月31日で終了する事業年度までの3事業年度の間在任する当社取締役に対して当社株式が交付されます。なお、取締役が当社株式の交付を受ける時期は、原則として取締役の退任時です。

(2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により純資産の部に自己株式として計上しております。当第3四半期連結会計期間末における当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、343百万円、118千株です。

(セグメント情報等)

当第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年12月31日)

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社及び当社グループ(以下 当社グループ)は植物性油脂製品、業務用チョコレート製品、乳化・発酵素材製品及び大豆加工素材製品の製造販売を主として行っており、取り扱う製品群毎に国内外で事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、製品群を基礎とした事業別のセグメントから構成されており、「植物性油脂事業」、「業務用チョコレート事業」、「乳化・発酵素材事業」及び「大豆加工素材事業」の4つを報告セグメントとしております。

「植物性油脂事業」はパーム油及びパーム核油等を基礎原料とした食用加工油脂、食用油及びチョコレート用油脂等を製造販売しております。「業務用チョコレート事業」はチョコレート、コンパウンド及びココア製品を製造販売しております。「乳化・発酵素材事業」はクリーム、マーガリン及びフィリング等を製造販売しております。

「大豆加工素材事業」は大豆たん白素材、大豆たん白食品及び水溶性大豆多糖類等を製造販売しております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	植物性油脂	業務用チョコレート	乳化・発酵 素材	大豆加工 素材	計		
売上高							
外部顧客への売上高	72,163	122,094	52,835	26,050	273,144	—	273,144
セグメント間の内部 売上高又は振替高	9,977	1,442	3,292	263	14,976	△14,976	—
計	82,141	123,537	56,127	26,314	288,120	△14,976	273,144
セグメント利益	5,586	5,445	2,461	2,686	16,179	△2,656	13,522

(注) 1. セグメント利益の調整額△2,656百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用2,656百万円が含まれております。全社費用は、当社及び一部のエリア統括会社におけるグループ管理に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。